

せい ろう まち
聖籠町
議会だより

VOL.
99
平成24年7月13日発行

やったー
勝利の歓声
(山倉小学校運動会)



6月議会主な質疑

2～5ページ

9人が一般質問

7～16ページ

委員会報告

18・19ページ

6月定例会

平成24年第2回定例会は6月11日から15日までの5日間の会期で開かれました。町長からの行政報告があり、新新ハイバス大夫興野インターチェンジの新発田方面の乗入れについて、今年度から新規事業採択されたことなどの報告がありました。

外国人登録制度の廃止に伴う印鑑条例および手数料条例の改正や、県の医療費助成が小学校6年生から中学校3年生までに拡充するのに伴う、妊産婦および子どもの医療費助成条例の改正、一般会計・特別会計補正予算など13議案を慎重に審議し、すべて原案通り可決しました。

また、税条例の改正など専決処分3件について承認し、請願1件および陳情1件について採択、第1回定例会で継続審査となっていた請願1件について、厚生産業常任委員会でも採択となったことから、本会議にて起立採決の結果、賛成6、反対7で不採択となりました。

一般質問では9人が図書館建設や地域ボランティア活動助成、節電対策、農業の振興策などについて厳しく町政を質しました。

税条例の根拠となっている地方税法の一部を改正する法律ほか公布されたことを受けて関係する条項を改正するもの。

税条例の一部改正の専決処分の承認



主な質疑

土地買収価格の下落理由は

五十嵐利栄議員 町の土地買収価格が6%～15%下落している。その理由は。

3年に一度の見直し

税務財政課長 土地の評価額は毎年3%～4%下落している。用地買収価格の見直しは3年に一度のため下げ率が大きくなっている。

印鑑条例および手数料条例の改正

個別対応とする

住民基本台帳法および出入国管理に関する法律の改正により、外国人登録制度が廃止され、外国人も住民基本台帳法の対象となるため、関係する条例を改正するもの。

法改正の周知方法は

宮沢光子議員 外国人登録制度の廃止で指紋は採らなくなるのか。また、法改正の周知は。

町民課長 指紋は採らない。また、町で105人が外国人登録している。対象者が限られているため、郵送による個別対応とし、広報などで知らせることは考えていない。

町営畑地かんがい施設事業特別会計の廃止

主な質疑

今後の事業に支障ないか

渡辺利道議員 畑地かんがい施設は施設の老朽化が進んでおり、更新が必要と考えるが、その際に

特別会計廃止が支障とされないか。

支障ない

産業観光課長 畑地かんがい施設の更新は町として対応する方針で、一般会計で対応できると考える。



主な質疑

分割発注しないのか

渡辺利道議員 役場庁舎の耐震補強工事は、建築工事・電気工事・設備工事に分割して町内業者の受注機会の拡大を図る考えは無かったのか。また、この工事の監理は外注するのか、直営でするのか。

工事円滑化のため一括発注した

総務課長 受注機会の拡大のため、分割発注という方法もあるが、連絡調整を円滑に進めるために一括発注とした。また、工事監理は外部委託とする方針である。

行政報告



渡辺町長

●ハルビン市を表敬訪問

●杉の子の家パン販売所建築決定

●大夫興野インター新発田側乗入れ事業採択

▼平成23年度の一般会計の決算見込みとして3億2543万円の黒字となった。また繰越滞納額は1億600万円余りで、今後とも国税徴収法に基づく滞納処分を進め、滞納額の減少に努めたい。

▼ハルビン市との国際交流は平成9年以来、本町小・中学校と経緯小学校・117中学校とで交流を続けてきた。今年ハルビン市子どもたちがハルビン市を訪問する予定であり、議長とともに本議会終了後に表敬訪問する予定。

▼杉の子の家パン工房は、ようやく米粉パン製造が軌道に乗ってきており、今後はパンの販売に重点を置くこととしている。学校への納入も予定しており人気があるが、販売場所がわかりづらいため、パン販売所を機関連展示場跡地に建築する予定である。

▼生ごみ分別収集事業は4月から全集落を対象として運用し始め、2カ月で53トンの堆肥化が行われた。

▼本年度は、堆肥生産量の検証を行いながら、幅

広い活用方法を模索したい。

▼加治川右岸に散在する不法投棄について、可燃物20トン、不燃物23トン、合計43トン処分した。まだ大量に投棄されているため来年度以降も継続して実施する。

▼聖籠地域防災計画および津波ハザードマップの見直しは、県のデータの公表が遅れており進展していない。データが公表されたら速やかに計画の見直しを進める。

▼新新ハイバスの大夫興野インターチェンジの新発田方面の乗入れ改良が平成24年度新規事業として採択された。引き続き早期完成に向けて働きかける。

▼学力向上の取り組みの成果が顕著になっており、中学3年生の標準学力検査の5教科平均が、第4次総合計画の目標値に到達した。今後は同計画で掲げる学校・家庭・地域の教育力向上を図っていく。

▼図書館建設では、6月4日に図書館建設委員会より最終答申がなされた。平成26年4月開館に向けた作業に着手する。

工事請負契約の締結 役場庁舎耐震補強工事



▲ハルビン市117中学校を表敬訪問

ハルビン出張経費 どうする

五十嵐利栄議員 町長、議長及び職員2人が中国ハルビンに出張する。3泊4日の予定だったが、新潟空港からの便が減ったため5泊6日になり、観光も行程表に入らなかった。観光の部分は私費で払

新潟便以外で 帰るべき

うべきでないか。
小川益一郎議員 中国から日本への航空ルートは新潟空港以外の空港から多くある。多少無駄な経費がかかって、現地での用務が終わったら帰るべきでないか。



▲増設計画中のまごころ保育園ひがしこう

一般会計補正予算

保育所施設整備事業補助金
消雪パイプ設置工事
6m未満生活道路舗装補修工事
育英生貸付金
杉の子の家パン販売所建築工事

3845万円
1500万円
1200万円
1322万円
1099万円

主な質疑

**預かり園児は
どれだけ増えたか**

中村恵美子議員 こども園のパート賃金3園で3人増えている。預かり園児はどれだけ増えたか。

**3園で
18人増えた**

学校教育課長 蓮野こども園59人から62人に、蓮湯こども園50人から57人に、亀代こども園49人から57人と3園で18人増えた。

**保育園の増設は
いつ計画した**

宮沢光子議員 開設3年目のまごころ保育園の増設計画はいつ話があったのか。開園はいつからか。

昨年話があった

町長 昨年、増設計画の話があり県も了解した。町も公立の定員を減らす計画を進めていく中で、私立の定員増は望ましいことである。現行定員40人を30人増やして来年4月から開園する。

やむを得ない 日程となった

町長 ハルビンとの友好関係を継続するため現地を訪問する。新潟空港からの航空便が減ったためやむを得ず滞在が長くなった。観光は先方の好意で配慮してくれたので理解願いたい。

海まつり 具体的に何を する

小川益一郎議員 海まつりの具体的な内容は何か。
**よさこい、遊覧船
など盛りだくさん**

東港振興室長 7月21日

22日に実施する。集客目標は2000人、3000人。ステージでの踊りやにぎわい館でのパネル展示や遊覧船の運行などで町をPRしていく。

パン工房 いつ開店する

宮沢光子議員 パン工房

10月頃開店予定

町長 10月頃の開店を目指して工事を進める。
**販売目標は
設定しているか**

五十嵐利栄議員 障がい者の収入向上はどのくらいみているか。販売目標はどのくらいか。

月50万、55万円 くらいを目標

町長 障がい者の収入アップは年間30万円くらい予定している。販売目標は月50万、55万円くらいを目標と考えている。

店舗の レイアウト悪い

小川益一郎議員 福祉政策としては賛成する。図面をみる限りレイアウトが悪い。再検討すべきでないか。



▲杉の子の家パン販売所建築予定地

細かい部分は 今後

町長 細かい部分は、今後運用面で考えていく。
**パン工房坪50万円は
高すぎないか**

中村恵美子議員 パン工房の建築費坪50万円となっているが高すぎないか。

やむを得なかった

町長 建設費圧縮につ

**パンの
生産能力は**

田中智之議員 パンの販売目標と生産能力の整合性はとれているか。

**生産の
余力はある**

保健福祉課長 生産能力は200個、300個あるので販売目標には余裕がある。

9議員が質問

宮沢光子 議員 (8ページ)

- 1 PFI事業導入の結論は
- 2 ネットワークづくりが必要
- 3 学校支援地域本部の実態は

渡辺利道 議員 (9ページ)

- 1 LED防犯灯の補助制度創設を

五十嵐利栄 議員 (10ページ)

- 1 米の独自販売を
- 2 加工センター増設は
- 3 節電対策どうする

小川益一郎 議員 (11ページ)

- 1 図書館建設の最適地はなぜ役場周辺か
- 2 「みらいのたね」はどのように成長したか

桜井 怜 議員 (12ページ)

- 1 消雪パイプ予算は毎年一定額の計上を
- 2 免許証自主返納の対応策は

青木 順 議員 (13ページ)

- 1 にぎわい館どう活用する
- 2 生ごみ収集計画どおりか

中村 恵美子 議員 (14ページ)

- 1 柏崎刈羽原発どう考える
- 2 国庫負担の増額求めよ
- 3 医療費助成は中学卒業までに

高松 守雄 議員 (15ページ)

- 1 国への支援要望は
- 2 地域活性化券は今年もやるのか

田中 智之 議員 (16ページ)

- 1 定住人口増加で町に活力を
- 2 学校支援地域本部の課題をどうする

ズバリ 直言

一般質問 町政を問う

次回の定例会は、
9月中旬開催予定です。

読者の声



のみや 涼さん
二宮 涼さん (蓮野)

今、僕たちができること

先日NSGグループの専門学生と交流する機会がありました。20歳前後の学生は、とても素直で明るく純粋な印象でした。

僕の話しを真剣に聞きメモまでとってくれていました。この学生たちはこれから就職活動をし、社会に出ていきます。純粋な若い人たちの未来は「大人」の私たちが担っていると思いません。今、ニュースや新聞を見ていると否定的な話題が多いです。朝から政治

に対する不満や政策に対する愚痴、悲しいニュース。僕は人間の本质はポジティブだと思っています。人間は楽しいこと、うれしいことが誰でも好きではありません。

しかし今の世の中、否定的な情報や言葉が多く悲観的な見解をしてしまう人が多いのではないのでしょうか。

私は、日常生活の「言葉」にはとても気を付けています。特に人の悪口や仕事への不満は決して口にしないと決めています。

先ほどの純粋な学生たちがいつもグチばかり言っている組織に入ったかどうか？きつとグチを言う人間になるでしょう。逆に前向きな組織に入ればその人は前向きな人になるのではないのでしょうか。

私たちが若い人たちに向けてすべきことは、「前向きに生きる姿勢」ではないのでしょうか。生きていくことは素晴らしい、仕事は楽しいと行動で示すことが大事だと思います。

今すぐ世の中を肯定的にするのは難しいかもしれませんが、会社や家族の中で否定的な言葉を使わない。それぐらいなら今すぐできるのではないのでしょうか。

僕は聖籠町が肯定的なエネルギーが波及する中心でありたいと思っています。

みなさんの 請願・陳情

第2回定例会では、地域住民より直接の声となる請願2件、陳情2件が審査され、請願1件を採択、1件を賛成6、反対7で不採択とし、陳情1件を採択、1件を継続審査としました。

採択した請願

◎30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の採択を求める請願書
〔提出者 新潟県教職員組合北新支部 執行委員長 鈴木智博〕

不採択となった請願

◎地域を支える中小建設業者の仕事確保と地域経済の振興のための「住宅リフォーム助成制度」の創設を求める請願書
〔提出者 新発田民主商工会聖籠支部長 中村登〕

採択した陳情

◎水俣病特別措置法の申請期限延長等を求める陳情
〔提出者 新潟水俣病阿賀野患者会会長 山崎昭正〕

継続審査となった陳情

◎蓮濁居浦山地区道路環境整備の陳情書
〔提出者 蓮濁区長 森田春雄〕
理由 陳情内容などについて、なおも確認する必要があるため。

意見書を 国・県に提出

第2回定例会で2件の意見書が提出され、全会一致で可決されました。可決された意見書は、国の関係機関に提出し、実現するよう要請しました。

◎30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書

◎水俣病特別措置法の申請期限延長等を求める意見書



宮沢 光子 議員

PFI事業導入の結論は

町長 建設委員会の答申を尊重

問 図書館建設委員会は第2次答申で建設手法について、PFI事業導入に反対という答申を出しているが町長の判断は。
答 建設委員会の最終答申が6月4日に出され、新図書館の規模設定や敷地計画等から設計図(案)が公表された。最終答申の前に建設委員会は広聴会を開いたが、参加者からはさまざまな意見が出た。
建物についてはシンプル・イズ・ベスト。小さな自治体である聖籠町の身の丈にあった図書館にすべきと思う。
新図書館の設計図を見た感想は。
新図書館がオープンした後、今の図書館跡を何に利用するのか。



▲手狭になった現行図書館

ネットワークづくりが必要

町長 前向きに対応を考える

町長 PFI事業については、現状において導入は難しい。委員会の答申を尊重したい。
設計図(案)を見た感想は、建物が非常に複雑な構造であることと図書館にホールが必要か危惧するところである。
今後、実施設計の予算等を9月議会に提案したい。図書館建設の事務局体制を来年4月1日から兼務辞令を発令し整備する。現図書館の跡地利用については、社会教育事業にマッチするような再利用を検討する。

問 聖籠町第4次総合計画の中で町づくりのキーワードに住民との共生・連携がある。
町長 町には、各分野でさまざまなボランティア組織が活動しているが、垣根を越えたネットワークづくりが必要ではないか。
日頃から繋がることで有事のときに大きな力になる。ボランティア組織を支える住民も高齢化の一途である。定期的にボ

問 ランティア活動の啓発事業等が必要だと考えるがどうか。
町長 さまざまな分野でのボランティアの育成、強化の必要性を感じている。

社会福祉協議会だけに依存せず、町全体のボランティア組織の育成等に前向きな対応を考える。

学校支援地域本部の実態は

教育長 活動は順調に進んでいる

問 学校への地域ボランティアの在り方は千差万別である。地域ボランティアが入ることで学校や子ども達に良い影響があることを期待するが、学校現場の生の声を聞いているか。
教育長 各学校との打ち合わせをしてサポーターの関わり方を話している。活動は順調である。

●一口メモ
※PFI事業(ピーエフアイ)とは?
民間の資金・経営手法・技術を活用し、公共事業を行う手法。

LED防犯灯の補助

制度創設を

町長 町が責任もって全部やる

問 ①5月5日、北海道電力泊原発3号機が定期点検のために停止し、国内全ての原発が発電を停止している。この事態を受け、東北電力管内では夏場に突発的な需要があると広域停電する可能性がある状況。町も昨年以上の節電に努めなければならぬが、どのような節電に努め、どんな効果

があり、課題は何か。
②省エネや環境配慮の観点から、LED防犯灯の普及推進が各自自治体で進められている。妙高市では市内の防犯灯、街灯のLED化にESCO事業を導入している。町の施設に導入すれば、町は1円も出さずに防犯灯のLED化が行える。

新潟市や長岡市では、町内会が管理する防犯灯をLEDに変えるための補助制度を創設している。

LED防犯灯は蛍光灯式に比べ消費電力で6割削減でき、寿命は約7倍とメリットがある。しかし、器具代が高額なため、集落単独で設置するには負担が大きく普及を妨げている。

町で設置する防犯灯や街灯のLED化の推進と集落、自治会への補助制度創設の考えはないか。また、他の公共施設への事業展開の考えはないか。

町長 ①東北電力の見込みによれば、昨年並みの猛暑を想定すると、節電を実施した場合でも、8月はぎりぎりの状態と報告を受けている。このような状況から目標を設けずに協力できる範囲で節電に努める考えである。町民へは広報などで知らせる。

役場庁舎の昨年度の節電実績は、6月が1.7%の増、7月が8.7%の減、8月が7%の減、9月が7.7%の減だった。

②町の防犯灯は全部で3670灯あり、電気料で700万円、修繕料が150万円、合計で850万円くらいの経費をかけている。議員指摘のESCO事業導入の試算では、440万円ほどコストアップとなっている。

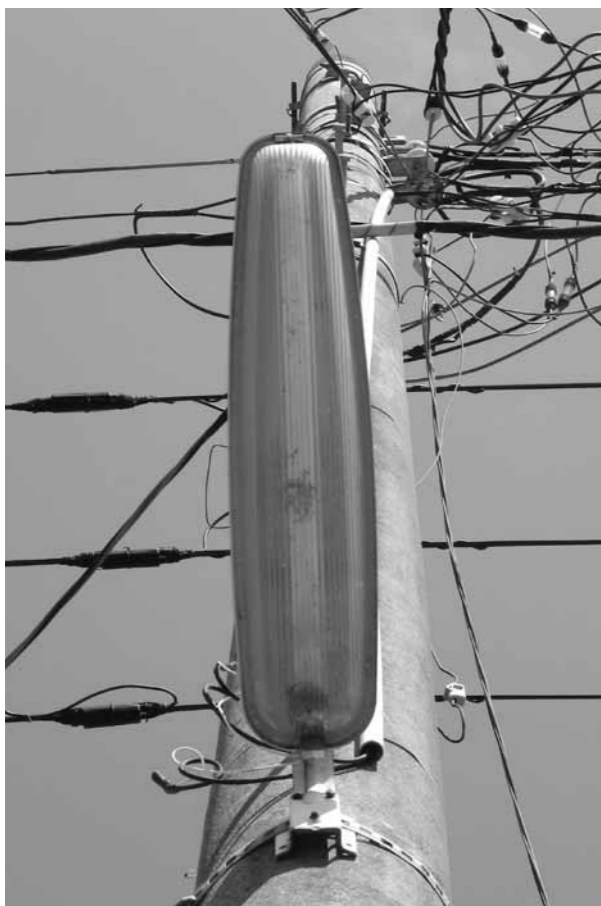
コスト面と環境の負荷の抑制を考えるなら、防犯灯のLED化は町の責任において全部やる必要があると考える。また、公共施設のへ対

応は、まだ具体的なものは計画していないが、指示はしている。

●一口メモ
※ESCO事業(エスコ)とは?
省エネルギーに関する包括的なサービス提供を行い、顧客の利益と地球環境保全に貢献するビジネスであり、効果(実績)から対価を得るビジネス形態。



渡辺 利道 議員



▲改良待たれる防犯灯



小川益一郎議員

問 平成元年町民会館の建設と併せて聖籠町の本格的な図書館がオープンした。それ以降、図書館を利用する町民が増加し、図書館文化が広く浸透してきた。図書館の持つ魅力や読書がもたらす大きな知識は、子どもはもちろんだ大人にも人生を豊かにし、生きる道しるべともなる。

町長 図書館を役場周辺とした要因は4点ある。①第4次聖籠町総合計画と第2次聖籠町都市計画マスタープランでは、役場周辺を町の中心地と

位置づけ適切な開発を支援し、市街化促進を図るエリアとしている。この計画との整合性を図る最適地と考える。②駐車場スペースや現施設及び共有地の利用なども考慮した場合、環境整備も含めて建設コスト抑制の可能性が大きい。③地理的条件や役場庁舎など現状の施設を考慮した場合、新図書館の意義利便性がさらに拡大する可能性がある場所だ。④役場周辺に建設することで既存の聖籠の杜や交流センターなど、施設利活用の相乗効果が期待できる。

この4点の観点から最終判断した。

図書館建設の最適地はなぜ役場周辺か

町長 役場周辺は町の拠点

米の独自販売を

町長 今後の大きな課題



五十嵐利栄議員

問 米の生産調整率も40%台となり、販売競争も激化している。例えばJA北越後は17年前から、城南信用金庫に毎年800トンも独自販売している。

町長 中国ハルビン市への輸出は現段階での諸情勢は難しい。今後の課題としてとらえていく。新潟の総領事とも深く交流しているため、今後の糸口にしたい。17日からハルビン市訪問もそれを視野に入れていく。昨年、横須賀湘南学院祭に出店し、聖籠町産コシヒカリを無料配付、PRした。販売もまだ多くはないが効果はでている。将来的に安定供給できる販路の構築をしていく。

町長 加工センターの敷地は広いので、当面プレハブなどで対応する方法もある。冷蔵庫の増設は今後の利用状況をみて判断していきたい。果樹を原料とした加工所の増設については、本当に必要なか否かについて、関係者の意見を聞く必要がある。

加工センター増設は

町長 当面プレハブなどで

問 6次産業化の充実と拡大という観点から、農産物加工センターの増設、拡大の検討が必要と考える。特に漬物の製品保管スペースが極端に狭いことや、みそのこうじ菌ともちの相性が悪く、同時生産できないこと、果樹を利用した加工場の新設要望などがあり検討が必要である。

「みらいのたね」はどのように成長したか

教育長 成長は続けている



▲どう生かす 地域交流棟

問 統合中学校が開校して10年が経過した。教科センター方式も紆余曲折を経て今日に至っている。特に地域と共生する開放されたスペースの中で「みらいのたね」が生まれた。「みらいのたね」は、今どのように成長しているのか。

教育長 統合中学校を育てる会からスタートした「みらいのたね」は、その意志を引き継ぐ形で成長し、今ある聖籠中学校の姿に大きな役割を果たしてきた。

節電対策どうする

町長 目標値は設定しない

問 夏場の電力不足が言われている中で、節電対策にどう取り組むか。節電目標値は設定するか。LED球などに対する助成制度を考えているか。節電の啓発施策についてPRをどうするか。

町長 東北電力管内は若干の余力があるので目標値は設定しない。LED球は今後検討する。広報で啓発活動を行う。



▲今年も盛況だった さくらんぼまつり



青木 順議員

問 今年の4月に、海のにぎわい館がオープンした。聖籠の海に、より多くの方が足を運んでいただけのではないかと思う。今年、新潟東港は、みなとオアシスの認定を目指している。お祭りが一つ増え、より一層のにぎわいを見せると思うが、周辺のごみ問題や、夏シーズンやシーズンオフについて、どのような議論が交わされているのか。

町長 これからの夏シーズンだが、PR活動を行い、関係機関と連絡調整を行いながら、海岸のごみ問題なども含め、海岸清掃や聞き取り調査などを行い、万全の準備を進めていく。シーズンは、釣り大会やサーフィンの体験教室などさまざまな計画を進めていく。冬場については、サーフィンをされる方や海を愛する方の利用者の拡大を期待したい。



▲シーズン到来 にぎわい館

にぎわい館 どう活用する

町長 各種団体に働きかける

町長 これからの夏シーズンだが、PR活動を行い、関係機関と連絡調整を行いながら、海岸のごみ問題なども含め、海岸清掃や聞き取り調査などを行い、万全の準備を進めていく。シーズンは、釣り大会やサーフィンの体験教室などさまざまな計画を進めていく。冬場については、サーフィンをされる方や海を愛する方の利用者の拡大を期待したい。

生ごみ収集 計画どおりか

町長 ほぼ順調だ

問 平成18年に資源ごみの有効活用のもとに、生ごみ堆肥化事業がスタートした。現在生ごみ処理機は3台になり、1日の生ごみ処理能力が2400キログラムである。24年度の実績を見ると、1日の生ごみ収集量は約800キログラムぐらいのようである。全町対応になったわりには、集落によっては差もあると思うが少ない気がする。

この生ごみ堆肥化事業は、非常に良い事業である。しかし、町民一人ひとりの協力がなければ、成果は期待できない。町が行う事業に対して町民が理解し、協力し、連携して継続していけるかが、すごく大事だと思う。町長の考えは。

町長 今年度は全町開始の初年度ということだが、4月が25トン、5月が28トンとなり、予定よりやや少ないが生ごみが多い夏場を考慮すると、ほぼ計画した数値に近くなるかと推測している。なお、施設の収集目標は年間500トン程度である。まだ生ごみを可燃物として出している家庭もあると思われるが、今後も広報などを通じて、生ごみの分別収集の推進を図りたい。生ごみがどう再利用されて有機肥料に還元されるのかを理解されるようPRしていきたい。

これからも、きれいな町づくりを目指してみんなで努力していきたいと考えている。

消雪パイプ予算は 毎年一定額の計上を

町長 一定額計上はなじまない

問 今年度は、除雪で押し雪の逃げ場がないところ、また車両及び歩行者の安全確保のため、排雪を実施したと聞く。消雪パイプの整備は、第4次総合計画にも載せてあるが、平成23年度と25年度の実施計画を見ると、各年度事業費の格差が大きい。そこで今後新たに、5カ年計画の中に毎年一定額の予算計上を行い、集落内の狭い道路及び交差点などの消雪パイプ布設計画を立てていく考えはないか。

町長 消雪パイプの整備に関しては、基準の優先順位に基づき、5カ年計画を定めている。消雪パイプの整備計画は路線ごとの整備を毎年予算化を対応している。整備箇所状況により、消雪リードの数、整備延長の違い、側溝整備の附帯工事の規模などの違いがあり、各路線工事

費が違ってくる。予算的、政策的には、一定予算を確保し、議決後やるというのも当然である。しかし実行する路線について、確実な積算をして、計画に合わせ対応するのが執行になじむ対応でないかと思う。



▲整備が待たれる消雪パイプ

免許証自主返納の 対応策は

町長 今は考えていない

問 町の交通事故発生件数は、平成23年度は70件であった。その中で車両による事故発生が一番多いのが交差点の事故、次が高齢者による事故、その次が若者による事故の順となっている。県でもほぼ同じ傾向である。

町長 県内でも実施は今のところ8市にとどまっている。主な内容はタクシー利用券発行が4市、市営バス回数券発行が5市、写真つき住民基本台帳カード無料交付が5市。

自主返納した方を特定した助成措置ではないが、本人の申請により75歳以上の人にエコバス無料券を交付できるのでないかと考えている。今後は他の市町村の状況を踏まえながら検討する。

他の自治体では高齢者の交通事故防止を目的に、一定の年齢以上の人が、免許証を自主返納することにに対し、交通手段の利用券を配付している。また、本人確認のための免許証に代わるべき役割を果たす内容物の発行との新聞記事を見る。町も取り組む考えはないか。



高松 守雄議員

問 東港開発について、整備を進めてきたコンテナターミナルの延伸事業4号岸壁が完成した。本来は、港の機能をどうするかより集荷を増やすことが先決である。港の背後地の工業団地の造成や企業誘致、産業育成を国・県・新潟市と連携を図り、支援策を考え、民間企業が参入しやすい環境を整える必要がある。東港振興室を発足し次の点について、まちづくりへの今後の取り組みを問う。

町長 東港開発については、田方面への乗り入れは、新潟東港地区事故対策事業として地元で事業説明があつたが、事業計画はどのようになっているか。

町長 ① 大夫興野インター(ゴルフ場用地)へのエネルギー関連事業の活用展開に向け、町長が行った経済産業省資源エネルギー庁への要望後の情勢変化は。

町長 ② 国道113号と新新バイパス間における大夫興野地区の土地利用計画で、コンテナターミナルの鉄道乗り入れの臨港交通施設を都市計画マスタープランで具体化したらどうか。

町長 ③ 大夫興野インターは15年来の課題であつたが本年事業化された。工事完成まで5年の予定である。

町長 ④ 我が国とロシア政府の間で、極東ウラジオストクにLNGプラント建設が計画されている。東港は日本海側の受け入れ基地として期待されている。

町長 引き続き国が進めるエネルギー政策と民間企業の動向に注視し、関係機関への要請を図る。

町長 ⑤ 大夫興野地区を含めた背後地は、業務促進エリアとして位置づけられ、保管業務・コンテナ物流基地としてのアクセス要素が高く、産業の集積ができ、立地誘導を図る。

国への支援要望は 町長 東港への期待高まる

柏崎刈羽原発 どう考える

町長 意見が二分される情勢

問 5月5日ですべての原発が停止した。原発はなくても電力は確保されている。原発はなくても大丈夫なのに、なぜ危険な原発を再稼働させて住民を危険にさらさなければいけないのか。

2013年4月からの柏崎刈羽原発の再稼働を認めない立場に立つべきでないか。

町長 柏崎刈羽原発再稼働については、泉田知事は前提として福島原発の事故の検証が第一とする。その結果を見ないうちに稼働するしないの議論ではないとの考えである。

柏崎市長は割合慎重な対応である。



中村恵美子議員

刈羽村長は安全が確保されたとなれば、容認してもいいんじゃないかと前向きである。

しかし、福島原発の放射能汚染の恐怖をまざまざと見せつけられた。

また、避難している方々の心情を察したり、原子力発電所が未来を担うエネルギー産業として確立されているか意見が二分される情勢下にある。

これらの意見を踏まえたい。

町長 自治体の意見言っている

問 国民健康保険に総収入に占める国庫支出の割合は、1980年代前半の50%から2010年度では25・6%に半減している。国庫負担の増額を求めるべきでないか。

町長 町も厚生労働省の医療保険局との議論に参加して、自治体の意見を言っている。

医療費助成は 中学卒業までに

町長 中学卒業まで助成する

問 県は9月から子どもの医療費助成を、入院、通院とも中学卒業まで拡充する。ただし、子どもが3人以上のいる世帯である。

9月からは、新発田市、阿賀野市の2自治体も増える。本町も30000円の枠をはずし、中学卒業まで拡充すべきである。

町長 子どもの医療費助成は、9月から本町では現行の町単独の中学生医療費助成制度を廃止する。

子どもの入院、通院費医療費助成制度を中学卒業まで拡大する。県は第3子以上が対象だが、町は第1子、第2子について助成枠を拡大していく。



▲すくすく育て 町のたから

地域活性化券は 今年もやるのか

町長 実施を前提に検討

問 地域活性化券についてはここ数年実施しており、大変利用者も多く地域の方々は喜んでいるが本年はどうする。

昨年は商工会員以外から1万円の登録料を徴収したが、運営費に問題があるのであれば取り扱い事業所に換金手数料を求めるとどうか。実施にあたり原資は公金なので商工会に指導を望む。

町長 事業主体の商工会からも要望を受けており、指摘を踏まえた中で協議、反映していく。



▲取扱量も増加中の東港コンテナバース



FM放送

実施に向け調査中

— 議会運営委員会 —

現在議会では、議会本会議の議論を「エフエムしばた」で放送することを調査・計画しています。

議会に関心はあるが仕事などの都合で傍聴できない人も、議場における本会議の議論を聴くことができます。

町長に対する町政全般について問う一般質問の議論も、身近な所で聞くことができるようになります。

また、若い世代をはじめとして、より多くの人に議会や議員活動を知ってもらうことができ、もっと町政に関心をもってもらえるのではと考えています。

現在、FM放送実施に向け、町の全域において「エフエムしばた」の受信状況の調査を行っています。

全議員で専用受信機などを使用し、実際の受信状況を調査中です。皆さまのご理解・ご協力をお願いします。

可能であれば9月定例議会から、本会議での議員の質問、町長などの答弁を議場からの生放送（場合によっては録音放送）で、お伝えしたいと思います。

議会も、今まで以上に広い視野と高い見識、迅速な行動力が求められています。全議員、より一層町発展のため尽力していきます。



FM放送受信状況調査へのご理解・ご協力をお願いします。

定住人口増加で町に活力を

町長 政策的な定住施策の展開が必要



田中 智之議員

問 本町は平成32年ににおける目標人口を1万5千人に設定している。今年5月末の人口に対して755人、約230世帯の純増が必要である。

町が今までと同じく自立性を保ち発展を続けるために、人口増加によって活力を維持・強化することは優先課題の一つだ。

この先、日本が迎える超高齢化社会及び急激な人口の減少を考えると、従来施策の継続だけではなく、内外にインパクトを与える施策も必要と考える。人口目標を達成するため、町が取り組んでいる政策、今後取り組む予定の定住促進策を具体的に。

町長 民間開発による新規住宅団地が有効となる。町の居住可能地の大部分は市街化調整区域で宅地開発は規制されている。そこで、昨年条例を改正し、開発事業者に対し積極的に活用を促しているところだ。

役場周辺地区での中心市街地促進化に向け基礎



▲計画的な定住促進策を

調査も行った。また、本町には新築住宅に対する上限を800万円とする低金利融資制度もある。で、そういう施策で誘導することも可能と考える。

学校支援地域本部の課題をどうする

教育長 よりよい方向へ向け検討

問 学校支援地域本部事業が今年で実質3年目を迎える。この間、小・中学校の環境・学習サポート、サポーターの生涯教育・自己実現双方に著実な成果を上げている。今後ますます期待が持てる事業だが、事業展開の上での課題について問う。

教育長 ①サポーター 確保のため、社会教育などでも広報活動をしている。

②中学校の町民ホーム ベースのように、小学校にも空き教室やスペースが確保できないか。また公会堂・公民館など公の施設での確保も検討したい。

③サポーター 現在はPTA、保護者あるいは企業への働きかけについて地域教育協議会などに提案し、意見を聞きながら進めていきたい。

④中学校の町民ホーム ベースのように、小学校にも空き教室やスペースが確保できないか。また公会堂・公民館など公の施設での確保も検討したい。

新図書館の完成後、現在の図書館跡を利用することも選択肢の一つであるが、よりよい方向に向けて再度検討していく。



一問一答方式・ 通年議会を調査

議会運営

本委員会は議会内における議論をより活発に発展させるため、以前より一問一答の在り方を検討してきた。
現在の一般質問は、事前に通告してある質問を登壇して質問、執行部より回答を得たのち、一般質問席に戻り、さらに再質問、再々質問と計40分の質問時間が与えられている。
しかし、この質問方式

では内容の深い、濃い議論ができないため、一問一答形式で議論したらどうかと長年調査してきたが、結論が出ていない。
このことを踏まえて先進地視察を計画し、本年度の調査を実施し、本年度中に採用するか不採用かを結論づけたい。
また、通年議会についても本議会に適しているか研究していきたい。
これからも町民の意見を大切に、議論を活発に展開したい。

議会広報 98号の 診断を受ける

議会広報

5月18日、県町村議会議長会主催の町村議会広報研修会に、当議会広報対策特別委員全員が受講した。
研修会は、まず県内3町村の広報委員長が事例発表した。当町の五十嵐委員長がトップバッターとして「読んでもらえる広報紙を目指して」のタイトルで発表した。その後、弥彦村及び刈羽村広報委員長が事例発表した。
午後は講師（全国町村議会広報審査委員長）城

市創氏から「議会だよりの編集ポイント」のタイトルで講義を受けた。編集の原点は読者（イコール）町民という講義を受けて、当町が目指している広報紙と基本理念が一致していることを再認識できた。
その後講師から、当町議会広報98号のクリニック（診断）を受けた。鋭い指摘や優しい評価に「喜一憂しながら、それぞれが今後の広報づくりに決意を新たに研修を終えた。」



あんなことや

調査

委員会

生ごみ収集処理の 成果を確認

総務文教

6月7日、真野地内の生ごみ堆肥化施設の環境、安全衛生及び収集処理について現地調査を行った。
①平成23年度は、収集投入量10万4311キログラムで堆肥化量が1万5180キログラム。24年度からは全町収集が実施され、4月は2万4875キログラム、5月、2万8477キログラムであり、比例して堆肥化量も1万1210キログラムとなり、3



4倍の量が見込まれるとの報告であった。
②ごみ減量化の現状は、23年度、104トンの生ごみを収集し、燃やせるごみは約17トンの減少となった。24年度は、4月が19トン、5月が14トンの可燃ごみが減少しており、生ごみ収集処理の結果が表れているとのことであった。
③施設環境は特に悪臭なども無く衛生的であった。施設の機能が充分発揮されることに期待したい。

こんなことを

研修

報告

さらなる施設整備・ 機能強化に期待

厚生産業

6月6日、新潟東港コンテナターミナルを現地視察した。
新潟東港は、昨年11月に国際海上コンテナ・LNGの日本海側拠点港に選定された。これに伴い、港湾規模に相応の機能強化が期待されている。
本州日本海側最大のコンテナ取扱量の東港コンテナターミナルは、東アジアへのゲートウェイ（玄関口）として世界主要港湾と結ばれている。

優位な国際競争力を有しており、さらなる発展を目指している。
今後も、利便性向上のための国際貿易ターミナルの本町東埠頭側への延長。コンテナ貨物の輸出入増加に伴う施設不足への対策。恒常化する沖待ちなどの問題解消のための早期の岸壁整備など、さらなる施設整備・機能強化が望まれる。



お知らせ

議会を傍聴してみませんか
次回の定例会は、
9月中旬開催の予定です。

どんなことが議論されているのか。どんな計画があり、どう進んでいるのか。あなたに身近なことかもしれません。気軽に傍聴においでください。

会議録は、町の図書館と保健福祉センター、診療所に置いてあります。どうぞご覧ください。

なお、一般質問の通告一覧は、定例会開催前に役場案内、町民会館、図書館、保健福祉センターに設置されています。



募集

募集しています
あなたもみんなのページ
聖籠町に嫁いで来た
お嫁さんに出てみませんか！
もし、私も思っている方は、
気軽にご連絡ください。
対象者は町外から嫁いで来た
お嫁さんです。

【連絡先】
町役場議会事務局
☎ 0254-27-1967 (直通)

議会広報対策 特別委員会

議長	須貝 龍夫
委員長	五十嵐 利栄
副委員長	渡辺 利道
委員	堀 常正
	田村 富美男
	田中 智之
	青木 順

みんな

の

ページ

聖籠町に嫁いで来た お嫁さん



聖籠町といえば “さくらんぼ”



こばやし ともよ
小林 知世 さん
(山三賀)

Q どんなきっかけで彼と知り合いましたか？
友達の結婚式の二次会で知り合いました。

Q 聖籠町に嫁いできてどんなイメージを持ちましたか？
聖籠町といえば“さくらんぼ”のイメージ。
家からもさくらんぼのきれいな花が見えます。6月にはかわいい実がなり、収穫がとても楽しみでした。

来年は、もっと収穫・仕分けにがんばります！

Q 町での生活はどうか(楽しい新婚生活のエピソードもあったらお聞かせ下さい)

家族に助けてもらい、毎日、元気に生活しています。

Q 町に望むことはありますか

これからも、住みやすい聖籠町であってください。

今回は新発田市出身で平成23年11月に嫁いで来た小林知世(旧姓 椎谷)さんです。皆さんよろしくお願ひします。

編集後記

木々の緑が一段と濃く素晴らしい季節となった。3月定例会では、2月の豪雪で各自治体が除雪費補正予算の議論中であった。わずか3カ月後には、夏の節電対策が議論されている。

日本人は、四季の中で生活している。私達の幼少期、冬は寒いもの、夏は暑いものと、教育されてきた。日本人は世界で一番湿度湿度の変化に弱い民族と、新聞で読んだ記憶がある。文明の器具が進化すると人は弱体化する。今夏、暑いとは言つまいと思つ。

今国会で議論中の原発の稼働は是非か、皆さんの判断はどうか。

議会広報対策特別委員会
委員 田村 富美男